

とめ 市議会 だより

第86号

2026年2月20日発行



目次

12月定期議会	2
12月特別議会	4
ズームアップ(補正予算)	5
委員会活動報告	6
一般質問	10
表紙について	16

● タイトル：花便り ●

● 作者：宮城県佐沼高等学校 ●

2年 星名 柊

● ジャンル：アクリル画 ●

12月定期議会（予算決算常任委員会）

議案第75号一般会計補正予算（6号）では、予算現額に7億6566万円を追加、総額520億8369万円とする案が提示されました。

審査では、「中田・南方庁舎等現況調査事業」に対し質疑が集中し、それを除く修正案が提出されました。

中田・南方庁舎等現況調査事業について

6月定期議会で削除した調査と今回の調査は何が違うのか。調査で何を判断するのか。

支所機能の維持が目的であれば、東和、津山、迫も含めるべきでは。なぜ、4庁舎（中田・南方・登米・石越）のみなのか。他庁舎はいつ、どう扱うのか。

東和庁舎は公的団体等により活用されている。過去の整備診断もあり躯体を含め、適切な時期に実施予定である。津山庁舎は比較的新しいため対象外とした。迫庁舎は基礎杭損傷が判明しており、長期使用は困難であるため調査予定なし。

公共施設等総合管理計画の方針（保有総延床面積の削減）の改修は30年目安と整合しているのか。

管理計画は8年度に見直し予定で、今回の調査結果を踏まえ必要に応じて方向性の変更も検討する。調査対象は年数だけでなく、劣化状況・機能要因・利活用を含め総合的に判断する。保有総延床面積の25%削減の目標に向け、基礎資料とする。

劣化度・躯体健全度を把握することで、改修時期・修繕内容・財政影響を総合判断できる。

調査は（仮称）地域交流センター建設の是非を決める判断材料なのか。

調査結果は判断材料の一つ。財政負担がより少ないと示されれば建設を選択する可能性もある。8年6月に新たなまちづくりの方向性を示す予定であり、財政・支所の在り方・防災などを含め総合的に判断する。

調査の財源はどうするのか。補助金・地方債は活用可能か。

現況調査は補助金や地方債の対象外のため、一般財源で対応する。

今回の提案は現況調査というところで、今の実態がどうなっているかの調査と受け止めている。これまで地域交流センターとの関わりで議論されてきたが、これは明らかに現況調査に主眼がある。「新たに複合施設を」の議論はされてきたが、既存の施設を売却するのか活用するのかという議論はされていない。この現況調査を行い、財政と結び付けて検討することは、市民にとって有効なものだと判断する。

これまでの調査検討から、調査費用は必要ない。5年修正案に賛成

【佐々木幸一】

この現況調査業務は公共施設等総合管理計画との整合性がない。提案の調査は、中田庁舎以外は築30年に満たず残存耐用年数を正確に把握できないのではと推察する。調査するのであれば築年数が経過し、市民が多く利用する施設を優先すべき。中田庁舎は築40年近くであり、一般耐用年数の3分の2を超えている。中田だけの調査なら期間も予算も4分の1になるのではないか。市長はある程度の基準を示すべき。

【石淵正広】

今回の提案は現況調査というところで、今の実態がどうなっているかの調査と受け止めている。これまで地域交流センターとの関わりで議論されてきたが、これは明らかに現況調査に主眼がある。「新たに複合施設を」の議論はされてきたが、既存の施設を売却するのか活用するのかという議論はされていない。この現況調査を行い、財政と結び付けて検討することは、市民にとって有効なものだと判断する。

【鈴木 実】

修正の提案趣旨から、総合計画に対する誤った認識の上でなされた修正提案であることが明らかだ。財政の優先順位が違っても指摘されるが、限られた財源の中で、2229万円の調査費を使い、財政計画の確実性を高めることに違和感はない。

【菅根充敏】

条例の制定

* 議案第84号 乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

条例の一部改正

- * 議案第85号 議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例等の一部を改正する条例
* 議案第86号 議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例
* 議案第87号 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
* 議案第88号 職員の給与に関する条例及び登米市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例
* 議案第89号 学校給食センター条例の一部を改正する条例
* 議案第90号 児童厚生施設条例の一部を改正する条例
* 議案第91号 廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例
* 議案第92号 下水道条例の一部を改正する条例
* 議案第93号 火災予防条例の一部を改正する条例
* 議案第94号 水道事業給水条例の一部を改正する条例
* 議案第95号 認定こども園設置条例の一部を改正する条例

条例の廃止

* 議案第83号 東和木工工芸研修センター条例等を廃止する条例

審議結果

起立採決は、賛成とする者のみの起立を求めるものであることから、記名投票により賛否の数を明らかにした。

Table with columns for bill name, council members (1-24),赞成 (賛成), 反対 (反対), and 議決結果 (議決結果). Rows include bills for budget amendments and establishment of facilities.

採決結果欄 (○)は賛成、(×)は反対または賛成しなかったもの、(白)は白票。白票は、会議規則により否とみなす。

※可否同数のため、地方自治法第116条第1項の規定による議長裁決により、否決とした。

原案（市長提案）に賛成

修正の提案趣旨から、総合計画に対する誤った認識の上でなされた修正提案であることが明らかだ。財政の優先順位が違っても指摘されるが、限られた財源の中で、2229万円の調査費を使い、財政計画の確実性を高めることに違和感はない。

【鈴木 実】

今回の提案は現況調査というところで、今の実態がどうなっているかの調査と受け止めている。これまで地域交流センターとの関わりで議論されてきたが、これは明らかに現況調査に主眼がある。「新たに複合施設を」の議論はされてきたが、既存の施設を売却するのか活用するのかという議論はされていない。この現況調査を行い、財政と結び付けて検討することは、市民にとって有効なものだと判断する。

修正案に賛成

【佐々木幸一】

この現況調査業務は公共施設等総合管理計画との整合性がない。提案の調査は、中田庁舎以外は築30年に満たず残存耐用年数を正確に把握できないのではと推察する。調査するのであれば築年数が経過し、市民が多く利用する施設を優先すべき。中田庁舎は築40年近くであり、一般耐用年数の3分の2を超えている。中田だけの調査なら期間も予算も4分の1になるのではないか。市長はある程度の基準を示すべき。

※債務負担行為…将来(翌年度以降)にわたってお金を支払う必要が生じる契約などを結ぶことについて、あらかじめ議会の承認を得ておく手続きのこと

12月特別議会

12月19日開催の定期議会が不成立とした補正予算案を新たに審議し、12月25日、12月特別議会において可決・成立しました。



12月特別議会で補正予算が成立

議案第100号

【遠藤真理子】
調査結果に基づく判断は誰が行うのか。また基準は。
答 庁内の最高意思決定機関は政策会議だ。そこに市長が提案し決定する。
問 前提条件が異なる施設を調査し、どう整理すれば誤解を与えない比較が可能か。
答 それぞれに経過が違う庁舎を、統一的な基準をもって判断するのは難しい。調査結果を基に、施設ごとに定めた。
問 調査費の内訳詳細は示せないのか。
答 調査業務に関しては、基本的に人件費となる。
問 構造が類似する施設の調査を合理的に進めるなどの工夫は出来ないものか。
答 地盤や周辺環境も影響する。それぞれの建物が置かれた状況によって、異なるものと認識するから一つの調査で推測するのは難しい。
問 定期議会提案との違いを説明されたい。
答 今回は現状を維持するための必要最小限の修繕内容の把握とした。適合性判断の部分は除いている。

反対討論

【遠藤真理子】
今回の調査は庁舎の在り方を検討するための基礎資料とのことだが、調査結果を誰がどの手続きを経て判断するのか、どう比較するのか十分に示されたとは言えない。
納得がいく選択につなげるのであれば、調査の前段階で判断の枠組みと比較の視点を議会と共有し進めるべきだ。
【石淵正広】
調査業務で財政需要を把握することだが、公共施設等総合管理計画との合理性が全く感じられない。調査のみに市民の血税を使うことは許されない。
賛成討論
【及川圭助】
この調査業務は、計画の白紙撤回というよりも、一度立ち止まり、ゼロベースで考え、市民生活に何が一番適正なのか判断して、市民にしっかりと説明するためのものである。
財政健全化のために何が必要か。次への一歩を踏み出すためにも将来を見通した判断をすべき必要がある。

●審議結果

Table with columns for council members (1-24) and a final '議決結果' (Decision Result) column. The result for '議案第100号' is '可決' (Adopted).

※採決結果欄 (○)は賛成、(×)は反対または賛成しなかったもの。欠は欠席

ズームアップ

12月特別議会で話し合ったこと

12月25日(1日間)開会し、一般会計補正予算を審議しました。

主な補正予算は下記の通りです。

物価高騰対策子育て応援給付金

物価高騰の影響が長期化する中で、子育て世代を支援することを目的として給付金を支給するもの。

(4785万円)

生活保護各種扶助費の支給

資産や自身の能力を活用しても生活に困る方に扶助を行い、生活の保障と自立した生活が送れるよう支援を行うもの。

(2億2597万円)

農業用水濁水対策支援

令和7年6月から8月にかけての記録的な少雨により、農業用水の確保が困難となったことから、農業者の経営安定を図るため各土地改良区で実施した濁水対策に要した経費の支援を行うもの。

(2197万円)

登米祝祭劇場高電圧受電設備改修

電気設備の経年劣化が進んでおり、施設を安全・安心に利用するため高電圧受電設備の更新を行うもの。

(435万円)

移住支援金事業

移住を検討している方から選ばれるまちづくりを目指して、移住定住を促進する取組により、転入者の増加と転出者の抑制を目指すもの。

(280万円)

産地づくりに向けた体制構築支援

畑作物の産地形成を図るため、事業実施主体となる農業再生協議会に対し、畑地化やブロックローテーションの体制構築等のための調整に要する経費を支援するもの。

(261万円)

鳥獣被害対策事業

農作物及び生活環境への被害防止を図るため、鳥獣被害対策実施隊が二ホンジカ等の大型獣類を捕獲する際に要する経費を支援するもの。

(36万円)

総務企画常任委員会活動報告

下水汚泥資源の肥料化と共同処理

(11月18日)

県は、流域下水道事業で発生する下水汚泥の有効利用や、コスト削減を図るため検討を進めていた肥料化施設の導入について、事業の実施により処理コストの削減や市町村共同処理による安定化に伴う事務削減など多くの効果が期待できるとしている。



東部下水道事務所所管の3流域
①灰色…北上川下流域
②水色…北上川下流東部流域
③黄色…迫川流域

東部下水道事務所所管の3流域下水道(①北上川下流域、②北上川下流東部流域、③迫川流域)において下水汚泥肥料化施設の導入を進めること、また施設を設置候補地として「石越浄化センター敷地内」であることから事業概要について調査した。

委員からは、当該施設予定地が石越浄化センター内の南側に計画されることから、臭気拡散の程度や原子力災害指定廃棄物仮保管庫の移設など懸念事項の確認。さらに稼働時における大型車両の通行量や周辺道路の歩車分離、原料搬入時の車両形態が密閉式なのかなど、想定される地元対策の必要性なども意見として出された。

県の想定しているスケジュールは来年度に事業者を公募し、設計から工事完了まで4～5年を見込んでいる。また、県事業ではあるものの地元理解が必要不可欠である施設と認識することから、本市においても意をもって県当局と協議するよう求めた。

教育民生常任委員会活動報告

(仮称)登米市米山認定こども園に係る進捗状況

(11月13日)

本事業は、米山幼稚園と、よねやま保育園を統合し、8年4月から新たに「(仮称)米山認定こども園」を開園するものである。

8年度は公設公営でスタートし、9年度からは公設民営に移行する予定。運営業者は「社会福祉法人あすなろ」に決定し、現在、協定書の締結に向けて順調に協議を進めているとの説明を受けた。



よねやま保育園

また、7年度から園舎の屋根・外壁塗装工事など必要な修繕工事を行うが、実施にあたっては園児と職員の安全確保を最優先とし、保育環境に影響が出ないよう最大限配慮することを求めた。

南部学校給食センターおよび東部津山学校給食センターの再編

(11月13日)

効率的な運営のため、7年度末に東部津山学校給食センターを廃止し、8年度から南部学校給食センターへ統合する。廃止後の施設活用については、調理機器などの再利用を図るとともに、空き施設が長期間放置されないよう、速やかな検討を求めた。

(仮称)東部学校給食センター施設整備事業

(11月13日)

既存の4施設を統合す



学校給食

る新センター建設は、物価高騰の影響で費用が上振れしており、国・県の交付金確定を待つか、合併特例債を活用するか、財源確保の精査が必要である。市は国の動向を注視し、10年度の供用開始を目指す方針である。

委員会としても、安全・安心な給食提供に向け、長期的な視点で調査を継続していく。

産業建設常任委員会活動報告

指定廃棄物保管庫・農林業系廃棄物すき込み圃場の現地調査

(11月17日)

東北地方太平洋沖地震及びこれに伴う福島第一原子力発電所事故の発生は、未曾有の大規模な地震災害であった。

その後、肥育牛から暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたことに端を発する放射性物質に汚染された廃棄物の問題について、平成23年8月、国において8000ベクレルを超える稲わらなどは最終処分方法が決まるまでの間、隔離一時保管することが示され、本市ではハウス43棟により措置をし、平成24年10月に環境省より指定廃棄物の指定を受けている。



保管庫(石越浄化センター)

今回は、14年に渡り保管されてきた指定廃棄物の状態と、8000ベクレル以下の農林業系廃棄物の草刈り作業による進捗状況と影響などを調査した。

環境省より指定を受けた指定廃棄物については、国が責任をもって放射性物質汚染対処特別措

置法のもと早期の対応を望むものである。また、農林業系廃棄物については、圃場を確保し、早急な処理に努められたい。



すき込み圃場

指定廃棄物の処理に向けた取組について(12月25日) 指定廃棄物については、市内24カ所で2235トン保管している。国では当初2年間としていた保管期間が14年余り経過している。

下水汚泥肥料化施設の建設に向けた住民説明会では「施設の受入れには、指定廃棄物の撤去が前提である」等との意見が出され、再度の説明会が予定されている。



石越浄化センター

そのうち、石越浄化センターでは409トンが保管されているが、県では下水汚泥肥料化施設の設置に向けた計画が進められており、当該指定廃棄物の撤去が求められている。

震災復興のためにも、国・県・市が連携し、安全・安心を確保しながら、長年の課題解決に向けて取り組むことを求めていく。



保管庫(中田有機センター)

なお、市では市内に保管している指定廃棄物の全量処理には約20億円が必要で、令和9年度までの完了を目指して、調整

『議会改革推進会議』

議会をもっと身近に「足をトメて、とめトーク」を開催しました

登米市議会では、市民と議会との距離を縮める取組として、11月16日（日）、イオンタウン佐沼で「足をトメて、とめトーク」を開催しました。

商業施設という日常の場で、市民と議員が気軽に語り合う新しい形の意見交換です。

今回の「とめトーク」は、議会改革推進会議の取組として市民と議員が気軽に語り合い、互いの理解を深めることを目的に試行的に実施したものです。

議場や公民館ではなく、買い物などで多くの人が行き交う商業施設を会場とし、市民が思い立ったときに立ち寄れる場づくりを重視しました。

会場では、議員がブースに常駐し、テーマを設けず、自由な対話形式で意見交換を行いました。

子育て、教育、医療など、暮らしに身近な話題を中心に、38件の相談や意見が寄せられ、来場者は約100人にのびりました。

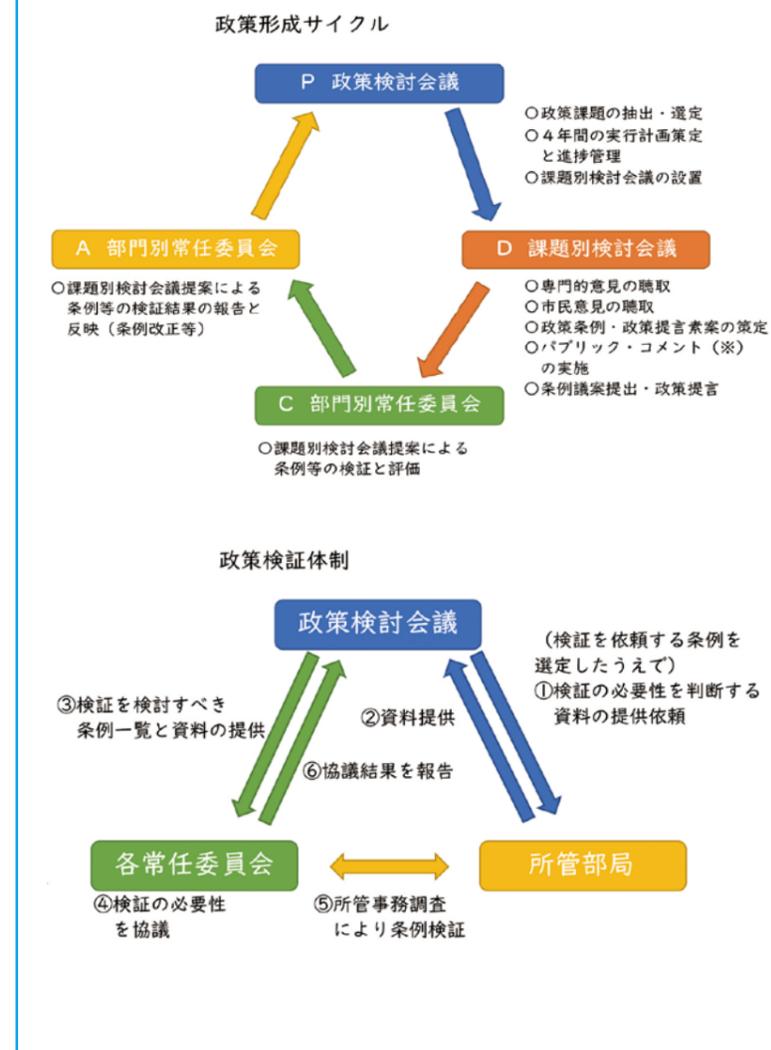
また、「何人の議員を知っていますか」というシール企画を入口に設置し、子どもから大人まで参加しやすい工夫を行いました。

参加者からは、「議員と話すのは初めてだった」「議会が身近に感じられた」といった声が聞かれました。

登米市議会では、今回の取組を振り返りながら、市民の声を議会活動に生かすため、今後も開かれた議会づくりを進めてまいります。



横須賀市の政策形成スキーム



改選後の新たな議会運営委員会は、本市議会の課題である政策形成サイクルの構築に向け、神奈川県横須賀市議会を行政視察してきた。

登米市議会に相応しい仕組みづくりへ検討開始
本市では、政策企画調整会議や部門別常任委員会が、横須賀市における「政策検討会議」「課題別検討会議」の役割を果たせないかなど、今後も検討を重ねていくことを確認した。

委員会審査の過程で、意識的に討議を
より充実した委員間討議の運営を目指すために具体的なルール化に向けた検討を行うこととした。

新たな「中心市街地等活性化特別委員会」が組織される



- 構成委員
【◎委員長 ○副委員長】
【写真右から】
伊藤 拓哉 首藤 忠則
田村 啓峻 工藤 淳子
浅田 琢哉 ○武田 節夫
遠藤真理子 ◎佐々木好博
伊藤 善博 佐々木幸一
曾根 充敏

12月定期議会一般質問

15人の議員が 市政に対する一般質問を行いました。

一般質問は、議員の調査研究活動や、住民の声、自身の考え方をもとに、市政全般にわたって市長などの方針を問うものです。



問 優先は人命等生活の安全確保だ

答 総合的対策を講じ 市民の安全に努める



須藤幸喜 議員

全国各地でクマによる人身被害が急増しており、本市においても目撃情報があることから、市民の安全確保と具体的対策について質問。

緊急統制制度導入における体制整備は、環境省のガイドラインに基づき、11月運用の本市対応マニュアルを作成した。

有害鳥獣対策での子供たちへの注意喚起は、保護者への緊急メール配信、学校職員の見守り、中学校の部活動中止、小中学校長会議での指示を行っている。

地域の方々の協力を得て子供たちの登下校の安全を確保する必要があると考えるが、

地域の方々がサポートする体制づくりの確保

全国的なクマ被害対策パッケージや県の総合緊急対策を活用し、誘引木伐採、追払い花火、クマ撃退スプレー、クマ鈴確保等の安全対策や被害防止に努める。



市では栗・柿の伐採を個人負担で実施中！



問 親切丁寧な分かりやすい案内看板を

答 観光案内看板の リニューアルを行う



浅田琢哉 議員

観光公園への案内看板が簡易的であり修繕が必要である。また、市民や観光客の安全・安心のため、改めて、施設の適正な管理として、観光公園などの施設および付帯設備の点検・整備、場合によっては撤去が必要と考えるが、市長の見解を伺う。

観光客の皆様は目線に立つて案内看板は必要である。来シーズンに向けて観光案内看板のリニューアルを行う。整備・撤去について、しっかりと精査し安全・安心を担保するよう努める。

本市の観光振興課題とされていた「高くない認知度」に対して改善は、今後は「米・牛肉」といっては登米市といった、本市のブランドイメージ

観光客の皆様の目線に立つて案内看板は必要である。来シーズンに向けて観光案内看板のリニューアルを行う。整備・撤去について、しっかりと精査し安全・安心を担保するよう努める。



登米市の「ポケット」はどの観光公園に？



問 捕獲した鳥獣の処理方法は

答 有害鳥獣減容化施設 など検討している



伊藤善博 議員

伝染病に感染した鳥が、民家で悪さをすることや、養鶏場や鳥小屋に侵入することで「鳥インフルエンザ」の感染が危険される。養鶏農家へ消石灰の配布だけで十分と考えるのか。

養豚の「豚熱」感染経路は、指定管理鳥獣である野生イノシシが要因である。農場への侵入対策として有効な方法を研究しているのか。

家畜保健衛生所とも連携しているが、侵入防止の徹底を養豚農家へ注意喚起している。

捕獲した鳥獣の処分方法として「レンジラン

グが効果的と考えるが市として検討されたか。



問 市長と職員との関係性は良好か

答 同じ方向性で歩み 始めたと感じる



佐々木好博 議員

職員との関係性において現在良好な関係性が保たれているのか。

職員との話し合いの下、各種事業の進捗状況などを確認しているところであり、同じ方向に向かって一緒に歩み始めたと感じている。

答 併や一連の市長のお話からは「業務的な関係」という印象にしか聞こえない。信頼関係構築のための職員との話し合いは足りているのか。

これまで、副市長が居ない状況で公務をこなしてきており、職員との話し合いが十分ではなかった。職員との意識共有が不足していたと感じている。今後はしっかりと対応していく。

現在の本市の政治的な状況は市民に不安を抱



問 納税貯蓄組合の今後のあり方は

答 単位組合の意思を 尊重する



及川圭助 議員

納税貯蓄組合の組織率について、平成17年度の約66%から令和7年度は約26%まで減少している。このような状況を踏まえて、今後の納税組合のあり方を伺う。

方向性については、各支部、単位組合の意思を尊重してまいりたい。

県内には納税貯蓄組合連合会は登米市だけでなく、当連合会の必要性がないのではないかと懸念している。

9月定期議会の一般質問でも行っているが、



問 登米市民病院患者の満足度調査について

答 9月定期議会の一般 質問でも行っているが、



登米市民病院

現在策定中の整備基本方針に基づき、次の段階として、今後担うべき役割や新機能の方向性について整理する基本構想などの策定過程において実施する「旨」の内容だった。基本構想などの策定過程を待つのではなく、現在市民病院を利用している患者の声を聞き、病院経営やサービスの改善につなげるためにも、今すぐ実施すべきと思うが考えを伺う。

問 子育て家庭への物理的支援について

新たに子育て世帯訪問支援事業を予定



遠藤真理子 議員

令和8年度から新たに子育て世帯訪問支援事業を予定しているという

の保護者ということだが、ヤングケアラーがいる世帯は、18歳ぐらいまでと



問 公共施設等総合管理計画進捗は

財源の確保と計画的な除却



岩淵正弘 議員

橋梁や水道施設の補修・更新については、計画に基づき工事が発注される



問 市立病院の経営実績を踏まえた施策は

診療報酬引き上げなどを要望していく



鈴木 実 議員

厳しい市立病院経営だが、これまでの医療収益の推移などをみて、



問 対象は産後1歳まで



問 錦織の機織沼公園の整備について



問 障害見備品購入に対する支援は



損益計算書による推移

※OTC類似薬・処方箋なしで購入できる市販薬のこと

問 今後保育事業をどう進めたいか

公立保育施設の統合・再編を推進していく



工藤淳子 議員

少子化によって、定員が埋まらず運営が厳しい



問 錦織の機織沼公園の整備について

早急に修繕や撤去などに取組む



熊谷和弘 議員

機織沼は錦織一番の景勝地である。令和6年には、



問 障害見備品購入に対する支援は

障害児保育事業補助金により支援



佐藤千賀子 議員

年間通して障害児を受け入れていない施設



制度についても



問 この制度はすべての子育て家庭に対して、保護者の多様な働き方



問 親の死後に残された一人家族の支援について



多機能トイレ 障害者用車椅子

問 これからの河川管理は

答 実情をしつかり国に働きかける



曾根充敏 議員

問 市内中小河川にあっては、川沿いに集落があり、生活圏を同じくする環境も確認できる。

答 昨今の降水状況に鑑み、安全な暮らしを見据えた河川整備強化の声も聞かれるが、市河川管理の在り方を問う。

問 本市東部に集中する河川は、豪雨時には土砂流出や水位の急激な上昇が発生しやすい特徴をもつ。古くからの集落が密集する地域も多く、定期的なパトロールを実施し、不具合個所の早期発見に努めている。

答 普通河川は市町村が管理することになるが、最近の降雨状況の中で市民の生命財産を守る河川改修は可能か。

問 市単独での河川改修は難しい。国の「緊急自然災害対策債」などを活用しても護岸整備程度にとどまる。

答 法律が管理者を指定したところは地域の小川であった普通河川であったとしても、最近の雨は受けきれない。市町村対応レベル対応では生命財産を担保するとは言い難い状況ではないか。

問 本市から積極的に、今の普通河川を抱える現状を国に訴え、河川法の仕組みを根本から検討出来ないものか。



関 孝 議員

問 自動車の安全装置の進化により、利用者や通行者の安全性が高まっている。市道区画線の補修整備を図り、市民の更なる安全・安心につなげるべきと思ふ。

答 通学路合同点検の結果や日常的なパトロール、市民皆様からの通報を基に劣化箇所の把握に努め、適切な維持管理に取り組みたい。

合併20周年の課題

問 旧町ごとに行われているさまざまなイベントや事業を継承しつつ、市民の更なる一体化に向けた新たな取り組みを。

答 市全体を網羅できるイベントを開催したい。「登米市肉フェスティバル」を試案中である。



道路区画線が消えているスクールゾーン



問 中津山グラウンドに芝生化を

答 芝生化によらない排水対策を行う



武田節夫 議員

問 中津山グラウンドの芝生化について、JFAグリーンプロジェクトポット苗方式芝生化モデル事業もある。活用しては。

答 芝生化には土の入替作業が必要である。排水対策の検討期間が必要と考え、小学校の校庭を暫定的に代替グラウンドとしての活用が可能なので、前向きに検討を進める。

問 廃校施設の利活用について、空き施設が増えている。酷暑時でも安心して遊べる屋内施設を整備する必要と思ふ。

答 地域や市各関係部署と情報共有を図り利活用に取り組み。

問 温暖化により市街地までフマが進出し、市民



中津山グラウンド



問 ヴィーナスの湯の再開見通しは

答 民間事業への市の関与となり難しい



首藤忠則 議員

問 本県北部の殆どの市町には、多人数利用可能な温泉施設等があるが、本市では「ヴィーナスの湯」が休業したため、そのような施設は皆無となっている。このような状況下で大震災等が発生した場合、本市被災民の安全・安心、やすらぎの場の確保、衛生面への配慮の観点からも「ヴィーナスの湯」の再開が必要と思ふ。

答 市民の方々の心の拠り所としての施設であったんだらうとは思っている。ただ事業者の最終的な判断により休業ということになった点についてはご理解いただきたい。事業者からの、しっかりと再開の要望があれば市としてもしっかりと協力させていただく。

問 事業者と市当局はお互いに色々の経緯があったと思うが、そこを乗り越えて、来年には再開できるように取組んでもらいたいと思ふ。

答 事業者にとっても、今回の休業は苦渋の決断であったと推察される。事業者から何らかのアプローチが市の方であった場合には指導し、関係機関と連携して、支援体制を構築して、再開にむけた支援に取組むことができたと思ふ。しかしそのようなことがない中においては、市が民間事業者の経営に介入することになるのは難しいものと考えている。



謹んで 哀悼の誠を 捧げます



故 浅野 敬 議員

登米市議会議員・浅野敬氏（享年89歳）が、去る11月22日にご逝去されました。

浅野議員は、平成9年から東和町長を2期8年務められ、その後、登米市議会議員として平成21年から2期8年、さらに令和7年4月からご逝去までの間、市政の発展に尽力されました。任期中は、教育民生常任委員会委員、地域医療確立調査委員会委員、宮城県後期高齢者医療広域連合議会議員などの要職を歴任され、地域のために大きく貢献されました。

12月定例会初日には、出席議員全員で黙祷を捧げ、続いて岩淵正宏議員が議会を代表して追悼演説を行いました。ここに、生前のご功績を偲び、謹んでお悔やみ申し上げます。



令和7年度行政視察受入状況

No	年月日	都道府県	来庁議会名等	調査事項
1	7月9日	福岡県	福岡市議会	農泊について
2	7月10日	長崎県	長与町議会	議会改革の取り組みについて
3	7月24日	埼玉県	ふじみ野市議会	議会活動の活性化について
4	7月30日	兵庫県	豊岡市議会	通年議会と事務事業評価について
5	8月20日	茨城県	結城市議会	議会改革の取り組みについて
6	10月15日	山形県	山形市議会	ナトカリ値の取り組みについて
7	10月16日	愛媛県	伊予市議会	登米市DX推進計画について
8	10月23日	愛知県	碧南市議会	伊豆沼農産の6次産業化について
9	10月28日	千葉県	袖ヶ浦市議会	議会改革の取り組みについて 議会活動の活性化について
10	11月5日	福岡県	柳川市議会	議会改革の取り組みについて
11	11月5日	福島県	須賀川市議会	市民協働のまちづくりについて
12	11月10日	秋田県	鹿角市議会	議会による事務事業評価に基づく提言について
13	12月23日	宮城県	栗原市議会	議員間討議、政策提言、議会モニター制度、議会ハラスメント防止条例について



議場で市民歌斉唱

(1月15日)

登米市議会では、その年、最初の議会開会に先立ち、市民歌を斉唱しています。

令和8年は石越小学校4年生27名の皆さんに斉唱していただきました。

素敵な歌声をありがとうございました。



人事

副市長の選任に同意

吉田信幸氏



昭和38年生まれ、気仙沼市出身。東部地方振興事務所登米地域事務所長、水産林政部長などを歴任し、令和6年6月から公益財団法人みやぎ産業振興機構副理事長を務めました。

表紙の絵について



「花便り」

この作品は、猫が花々や春風を通して、春の訪れを感じている様子を描いた作品です。猫の鼻先に桜の花びらがふわりと乗っている描写にちなんで、「花便り」とタイトルをつけました。制作する上で意識したことは、春のふんわりした雰囲気表現することです。春の風物詩とも言える桜や色鮮やかな花々、清々しい空気を思わせる青空など、絵を見て「春」を感じることができるように色合いなどを工夫しました。

この作品を通して、皆さんが思うそれぞれの「春」を感じ、春特有のほかほかしたあたたかさや、猫の心地の良い表情を見て癒しを感じていただけたら、嬉しいです。

宮城県佐沼高等学校 2年 星名 柊

あとがき

本市は市制施行20周年を迎え、間もなく新しい歴史のページをまた一つ進めようとしている。「議会だより」も86号を数えた。

読み手に、議会の様子が伝わる紙面づくりを目指し、編集作業が続けられている。12月定期議会・12月特別議会は議員にとっても、市民にとっても、意味深い議会ではなかったか。

これらの議会運営で、どの部分を切り取り、市民に伝えていくのか、短い編集期間の中で苦慮してきた。

また、本市議会も20周年を迎えるにあたり、合併後の登米市の発展のために議論を交わし、より良い議会に向けて議会改革を進めてきた。

議案に対してより深堀ができ、政策策定の仕組みを作るうえでも十分な審査・

議会からのお知らせ 2月定期議会

開会中

本会議はインターネット中継でご覧になれます。なお、ご不明な点などがございましたら議会事務局までお問合せください。

スマホで!



議会中継



facebook

発行責任者

議長 中澤 宏

広報広聴委員会

- 委員長 浅田 琢哉
- 副委員長 佐々木 好博
- 委員 首根 充敏
- 委員 鈴木 善博
- 委員 伊藤 啓博
- 委員 遠藤 真理子
- 委員 田村 拓哉
- 委員 伊藤 政博

(鈴木 実)